



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 44

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 44. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 44: 1-8

ISSUE DATE:

1956-05-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186826>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会

## 水族館月報

No. 44

1956. 4月(5月6日)

### 録 事

月報の発行も順調に軌き上げて才5年度に入った、昨年度の水族館入館者が34万を越えたことも全く意想外だったが、今月も昨年より1万人以上の増加だし、売上金は100万円を越える盛況である。

入館者の逐年増は人心安定した好景気に所以するものであらうが、水族館の規模は依然として旧態のままであるので、一時に多数の観覧者を収容することば、ますます難しくなった。収益はあつても建物は変らず、取食は足りないときているので、折角博物館相当施設に指定されたものの、本堂の博物館活動を積極的に拡大することは、現状では到底望めない。

4月17日、恒例の才5回委員会が別館の通り開催された。委員会で論議の中心となつたのは、何よりも焦眉の急となっている水族館の本格的改築のことで、昨年度提唱され、年内には実現するやに見えかかっていた博物館の平屋化計画は、全く蒼きいそめた形となった。会は午後4時終了、終つて一同水族館の改築予定の現場を視察し、動物園の工事現場を見学した。本年度は全取食をも含めて、夜7時より「吉原の井」で一同懇談会食に楽しく時を過し、9時散会した。

高田吾三委員長には昭和27年9月1日の発足以来、本会発展のため終始御盡力下さつたが、才5回委員会開催を機会に、残念なばら止めていただくことになった。よってその御功績に報いるべく金1万2千円也を本会より贈呈することになった。

なお高田氏の後任としては京大理学部事務官塚本健一氏を委員として推薦することに決定した。なお瀬戸部の代表として浦政吉氏を委員として新うたに推薦することも本委員会が決まつた。

## 才5回委員会記録

時日： 昭和31年4月17日 9~16時

場所： 京都大学瀬戸臨海実験所特研会計室

出席者： 宮地会長、南委員、塚本委員、内海委員、山路委員、  
布施委員、石本事務官（本田監事代理）、岩城監事、  
生駒監事、鹿野事務官（オブザーバー）、

以上10名（峰尾委員欠席）

記

### 1. 議長送出、委員の交代

イ. 宮地会長議長に送出さる。

ロ. 高田氏の後任として新たに塚本健一氏に委員を委嘱することに決定。

ハ. 高田氏には委員会創設以来3年半の長きにわたり委員と努めていただいたので、その御功績に感謝の意を表することと場一致で承認さる。これを機会に、委員退任の際贈呈すべき慰労金の基準を定めることと協計。大体1任期（2年）に対し6000円の割で計算することに決定した。高田氏は就任以来約2期と勤められたので12,000円贈呈される。

### 2. 議事決定

案の通り決定。他に思いつくことあらばその都度出す。

### 3. 経理報告及事業報告

内海事務委員より詳細報告さる。

### 4. 監査結果報告

生駒監事代表して監査結果につき、次の件を指摘さる。

イ. 各帖簿は前回の委員会の際の指示に基づき、改められたが、支出費目の頭款に予算額を記入し、それとの差額を記入することが抜けている。

ロ. 各帖簿の表紙にその内容を明示して欲しい。

ハ. 諸手当は実験所及び水族館の取費に支給されるもので、賃金はそれ以外の臨時傭員に対して拂われるものであるから、両者は、はっきり区分すべきものである。

- ニ、予算額との開きの大きいものを臨時に購入する時(10万円以上)は補正予算を組む必要がある。<sup>併し</sup>収入が予算額をはるかに上まわっている現状では、才3回季貢会での決定事項(3、ホ)によって各科内での流用は許容される。
- ホ、昨年度要求した常務委員手当を実際に支出していないのは納得がいかな。支出するのが至当である。
- ヘ、来年度季貢会より、監査に午前中をついやし、午後を審議の時間にあてたらよい。

#### 5. 監事報告に附随して各季貢より提出された議題

- イ、(前項⑤に関連)季貢実費弁償の項目とは別に、常務委員手当の項目を別に設けたらどうか(岩城提案)。
- 業務分担上の難点はあるが、実費弁償中に常務委員手当として月2000円の割で加算することと審議の上可決。
- ロ、振興会の費用で水族館担当の研究者を1名僱入れたらどうか(南提案)。
- この際事務費をいれるか、研究者をいれるか、或はその両業務に通じる人を入れるかは、来年度の研究事項として保留する。
- ハ、観光協会賞の負担金を増してほしい(岩城・南提案)

之に対し、パンフレットのような臨時支出に対し応分の協力を望むという意見(内海)と実際に宣伝を独自で協会がやっていること自体が協力している証拠だから、そのような条件付きでなく、相互協力を建前とする交際費の積りで出すべきであるとの意見(生駒・石本)が出された。従来水族館の受持つ観光協会の負担金は、番所山植物園より受取るべき手数料と振替の形で植物園側が負担してきたのであるから今後は植物園側と協議して手数料の問題を解決した上で、水族館自体で負擔することに決定。

#### 6. 臨時事業

全項承認。

塵埃焼却設備は小学校にあるもの、消火器は2人で搬ぶことのできる小形ポンプ(白浜町役場)を参考にすればよいとの岩城監事の報告あり、予算の範

団内で購入し得るものととのえることを了承。

## 7. 博物館の改築と水族館の改修

a) 現在の博物館をそのまま平屋化する(昨年度の委員会提出案)

b) 博物館はそのままとし、それに直結して平屋を新設し、既存のものを補強する。

c) 水族館の北半分をなす標本陳列室と鉄筋コンクリート2階建の水族館に改造する。

現在以上の案があるが、町側委員より、折角水族館の本格的改造を目的として長年積立てた資金を、a案の如く10年計画の第一期事業であつてそれ自体としてはさして急がれるでもない事に全部をへぎこむことは絶対必要とする水族館の改修を更に遅らすものとなる。それよりは一挙に借入金を加えて約1千万円位の予算で、水族館の本格的改築に押し進める方が得策ではないかとの、積極的な提案があつた。

この岩城案には各委員異議なく賛成し、不足資金の借入については町側のあつせんを期待し、早急にそのプランを作成すると共にその実現を計ることに意見が一致した。

## 8. 博物館相当施設としての在り方

イ. 博物館相当施設として独自の活動を推進してゆくに、大学附設の博物館乃至水族館はどうあるべきか、制度乃至経済上はつきりしない点が多い。今後払戻をふやすことも予想されるので、これを明らかにしてから、対応する措置をあらうかにめ講じておきたいとの考えからこの提案がなされたものであるが、これについては一応既設の地り大学附属博物館施設に運営の典拠となるような条例又は規則を参考にする必要があり、塚本委員を通じて2・3大学に照会することとなつた。

ロ. 取制上の部分保障は規約ができるまでは現行通りとし、とりあえず取負任命の証書を発令當時にさかのぼつて発行することとなつた。

ハ. 会長の準決事項に属することで、委員会を決することではない。取負の俸給は公務員の給与表に準じて支給されているが、臨時雇、学歴等を考慮する時は級外の給与も不当ではない。

ニ. 時岡委員留守中の博物館の監督は布施委員の担当とする。

## 9. 夜勤手当の支給

広義に解釈して諸手当を実験所職員に支給することに差支えはない。

## 10. 番所山植物園との連帯券

5月より植物園に動物園が併設される予定であるが、連帯券の発給は従来通りとし、水族館入口の掲札は今のところ改める必要はない。しかし前述の如く、観光協会費の分組が決まったので、契約書の書きかえを必要とする。

## 11. 瀬戸部との問題

- イ、瀬戸部より申出でのあった土地交換の件は本委員会に関与するところに非ず。それは法律上不可能であるとの石本事務官よりの説明があった。
- ロ、瀬戸部より推薦されるものを委實に委嘱することは昨年度委員会よりの懸案であったが、其の後瀬戸部よりその申し出でがなかった。しかしこれを広義に解釈して同部長浦政吉氏を本会より推薦することに決定した。

## 12. 観光地としての白浜に対する批判と要望

- イ、騒音防止のことは町でも困っている問題で、町として文教地区の指定はできない現状である(南)。乙姫プールの常務には個人的に申し入れておいた。(岩城)。県へ教育委員会と連署の形で同法案を作ってもらうことと申請することも一方法であるが、実験所長として両会社に直接書類で警告を発する方がもっと効果的ではないか(石本)との意見がでた。
- ロ、衛生問題、特に肥尿汲取の問題は白浜町のみならず全国的に解決のつかない難問題である(南)。水族館の便所も町有公衆便所並に毎月定例の検査が行われることを要望する。
- ハ、水道誘致の件は南町長の努力により7600万円の町の起債が5年計画で認められたので、解決の曙光が見えてきたことは甚ほしい。しかし実施上の点になると、水源地からの配水本管の12吋管への切替えが完成した上でなければ、本管より実験所迄への水道延長は難しいとのことである。

## 業 務 概 況

### ◎ 4月の入場者数

区 分	水族館 発売数	明光バス 発売数	合 計
大 人	13673	25457	39130
小 人	1621	591	2212
団 体	13303	—	13303
合 計	28597	26048	54645
無料入場者	白浜小学校・幼稚園生徒他		215

団体：一般 219組、 学生 12組 計 231組

### ◎ 4月の事業収入

観覧券売上金 ..... 1,031,194.  
 諸 収 入 ..... 140.  
 3月よりの繰越 ..... 103,184.  
 計 ..... 1,134,518

### ◎ 4月の支出

#### 水族館経費

費 目	金 額	備 考
人 件 費	55,677	
会 計 費	28,670	
備 品 費	—	
消 耗 費	46,100	
業 務 費	19,330	
維 持 費	1,270	
其 他 諸 費	38,571	
積 立 金	174,064	
合 計	322,192	

#### 実験所経費

費 目	金 額	備 考
奨 学 金	5,000	
合 計	5,000	

#### 博物館経費

費 目	金 額	備 考
人 件 費	4,700	
合 計	4,700	

## 支 出 合 計

水族館経費..... 322,192.  
 実験所経費..... 5,000.  
 博物館経費..... 4,700.  
 臨時費..... —

計..... 331,892

4月末現在高..... 802,626

### ◎ 前年度との比較

	1955	1956	増 減
入場者数	41199	54645	+ 13446
売上金	776,742	1,031,194	+ 254,452
支出金	271,945	331,892	+ 59,947

## 水族館 記 事

- ◎ 各水槽は例年になく淋しく、特にかわった資料が入らなかった。
- ◎ エビアミ漁業は今月で終るが、昨年度の漁獲高は例外的に少ないものである。  
イゼエビの脱皮機構につき原田英司君が水槽飼育のものにつき観察を継続している。
- ◎ 笠岡の内水研分場に依頼中のカブトガニが20匹、4月29日に到着。中2匹は輸送途中で死亡、中8匹を予備水槽に、10匹を本水槽に補充して展示する。

## 博物館 記 事

- ◎ 今月より布施委員が博物館の標本整備、展示を監督することになり、芝脇張を督令して、收藏室の棚に古びたまま保存されていた標本中、無価値となったものは内容を取捨て、標本瓶の洗滌再生に着手した。
- ◎ 本年2月水族館で死したマンボウ1匹は、その後軟内部を除去し、ホルマリン漬としたまま、皮部の固まるのを待っている状態であるが、適く布施委員の手によう本剥製とされよう。
- ◎ 4月10日一寸の隙間にハラダカラとシノメダカラの2個の東列棚の錠前をひき



ぬかれて盗難にあっていることを発見した。早速銭箱を全部紙状なものに  
 取替を1つのケースに2箇所とりつける様にしたので、今度銭箱を抜かれ  
 るようなへまはあるまい。貝の中この2個だけが盗難に達った原因と思わ  
 れるものは、その説明カードに記された「稀にしか採れず珍しいものである  
 よとの説明に眼をつけたらしい。公徳心の欠除とは云いながら、うつか  
 り説明も書けないことになる。掛夏には一寸気のつかないようなこんな真  
 実の説明も、展示するとなると心すべきことではある。

## 資 料

### ◎ 4月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(20)	7	7	6
気温(℃)	$\frac{12.5 - 16.2}{14}$	$\frac{15.2 - 22.8}{17.8}$	$\frac{15.1 - 21.5}{18.1}$
水温(℃)	$\frac{15.6 - 16.5}{16.2}$	$\frac{16.9 - 20.8}{19.0}$	$\frac{17.0 - 19.6}{18.6}$
比重	$\frac{24.4 - 25.5}{25.0}$	$\frac{23.3 - 25.4}{24.8}$	$\frac{24.2 - 25.5}{24.9}$

但し { 気温は南水橋室  
 水温 { は No.25 水槽 で 10 時に測  
 比重 }

昭和31年5月6日 発行 (No. 44)

編集兼  
 発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸湾海実験所振興会  
 和歌山県・白浜町  
 瀬戸湾海実験所 内  
 (電話 白浜温泉515)